

# 景況動向指数(Diffusion Index)

(2024年10月～12月)



経営発達支援事業資料

長浜市商工会

# 調 査 対 象 事 業 所

## 長浜市商工会 管内100事業所

製 造 業(20事業所)

建 設 業(20事業所)

卸 小 売 業(20事業所)

飲食宿泊業(20事業所)

サービス業(20事業所)

## \* 調査期間 2024年10月～12月

この資料は、経営発達支援事業の地域の動向調査に関するこの目的で実施した資料です。

### \* D I とは？

本報告書の中で%以外に用いているD I 指数とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略です。

各調査項目について増加（上昇、好転、長期化）企業割合から減少（低下、悪化、短期化）企業割合を差し引いた値を示します。

D I が+（プラス）なら強気（楽観）、-（マイナス）なら弱気（悲観）を表します。

例えば売上高で増加企業 50%、不変企業 30%、減少企業 20%の場合、

D I 指数・・・ $50\% - 20\% = 30$  となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表しています。

製造業（2024年10月～12月）DI 値抜粋

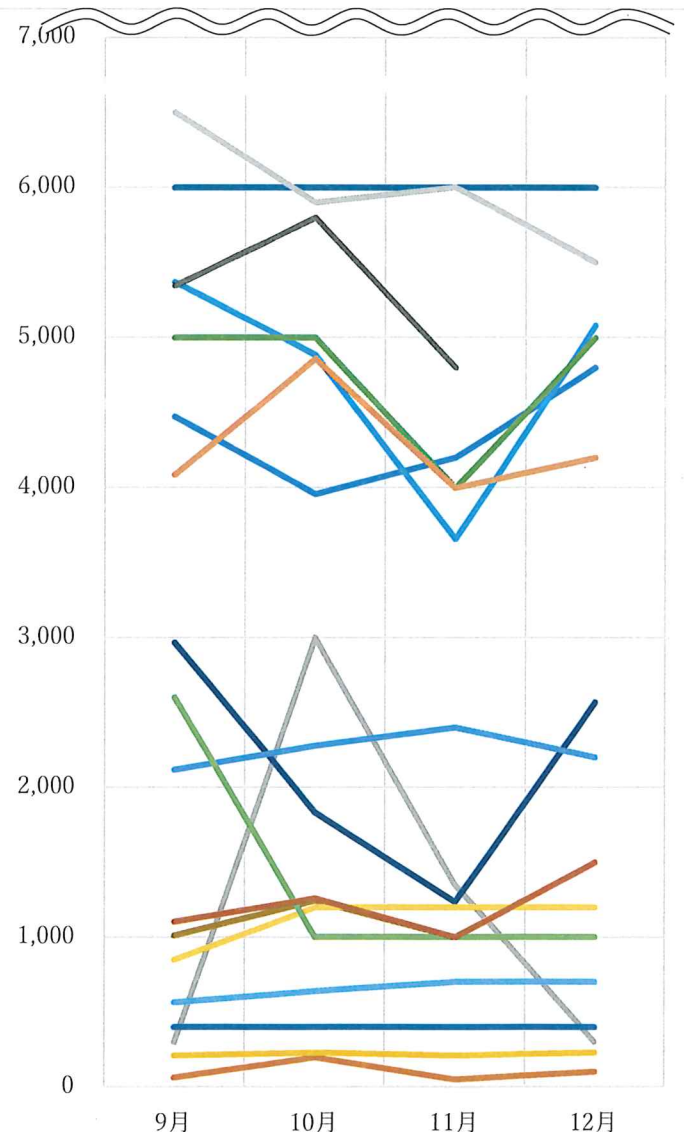
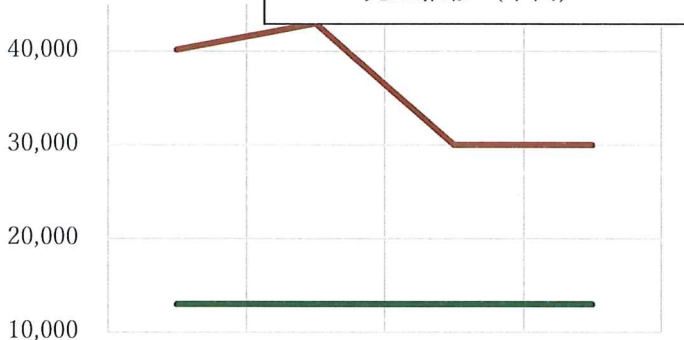
コメント

製造業の業績判断にかかるDIは、若干の下げ止まりはあるが依然として足元、先行きとも厳しい声が多い。

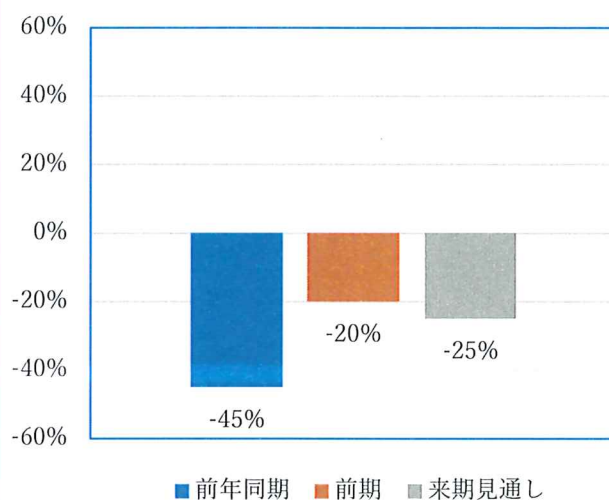
売上DIは前年同期▲45、前期▲20 来期▲25 と低下傾向が止まらない。資金繰りDIは前年同期▲25、前期▲25、来期も▲25 と低迷が続く。原材料仕入単価DIが高止まりで、前年同期+55、来期見通しとも+45 と原価上昇の影響を上げる企業が過半である。従業員増減DIは前年同期▲15、来期見通しは±0 低調な動向である。設備の操業率も低迷しており前年同期▲45、来期▲35 の状況である。

設備投資も今期、来期とも低調である。直面している経営の問題として、他業種と違い原価高が最上位とはならず需要の停滞、人件費の増加が最も多い、次いで原材料価格上昇、製品（加工）単価の定価・上昇困難と続く。個別の声としてはコロナ終息後、急激に業績が良くなり、その反動で悪くなっている。物価高騰や輸出減少等悪くなっていると思う。大型連休があり、作業時間の減少も原因と考えられる。原材料の上昇や工具費の上昇に伴い利益の低迷で苦労しています。展示会での新規獲得が進んだため、来期以降の売上に反映されていく予定と成果がある声もあった。

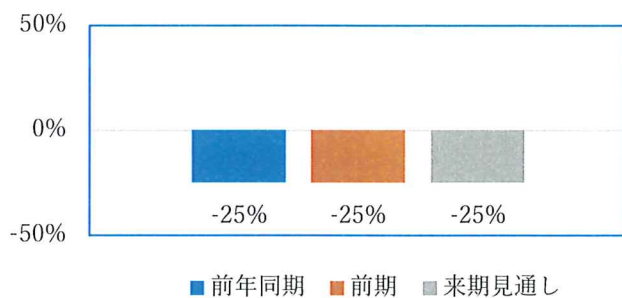
売上推移（千円）



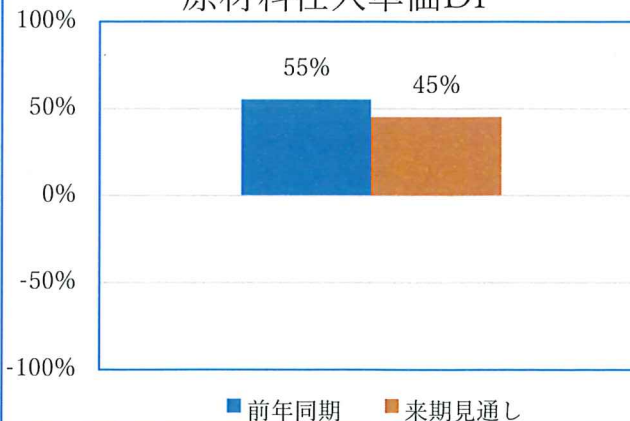
売上DI

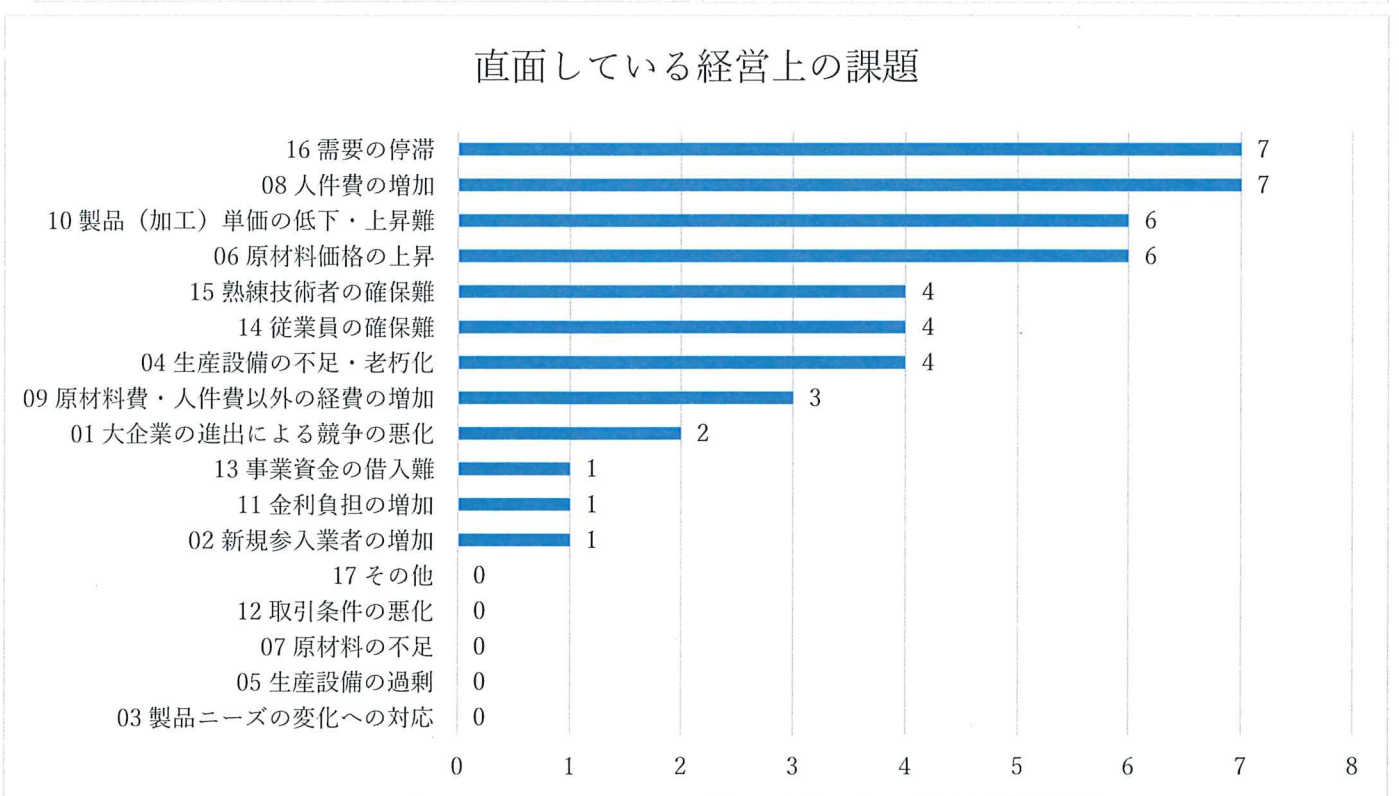
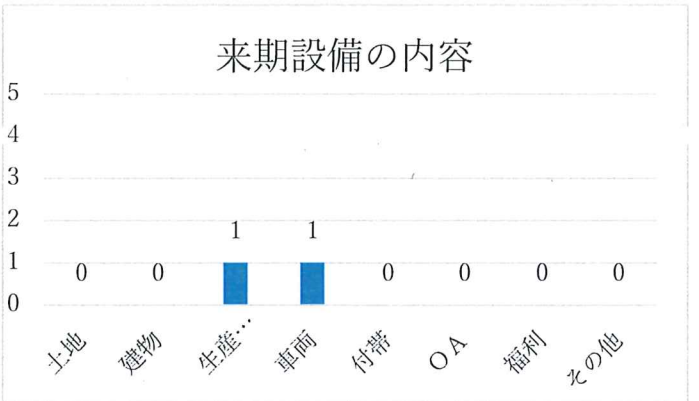
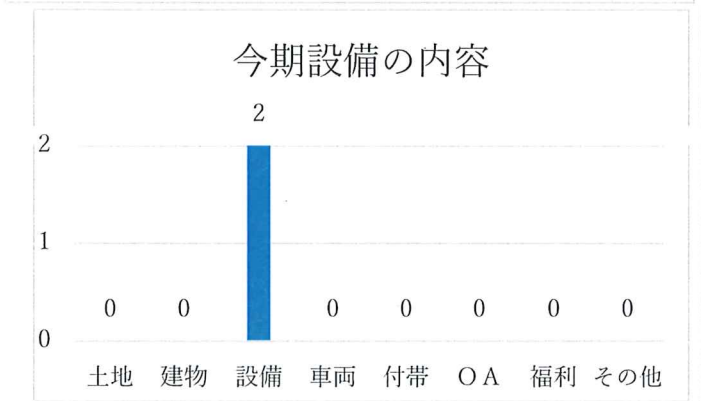
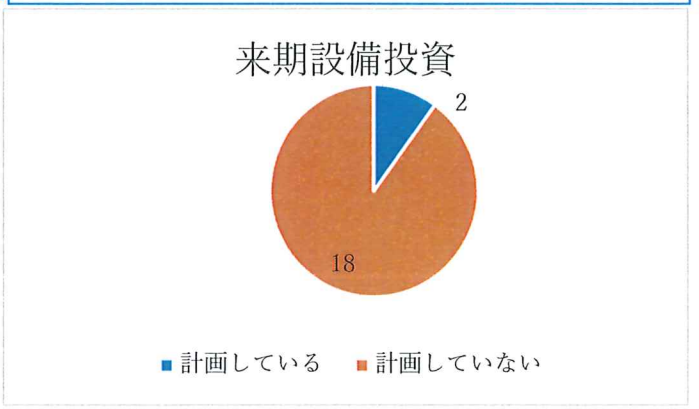
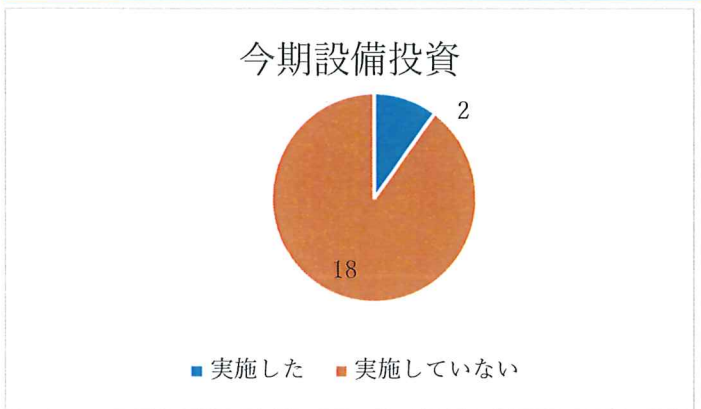
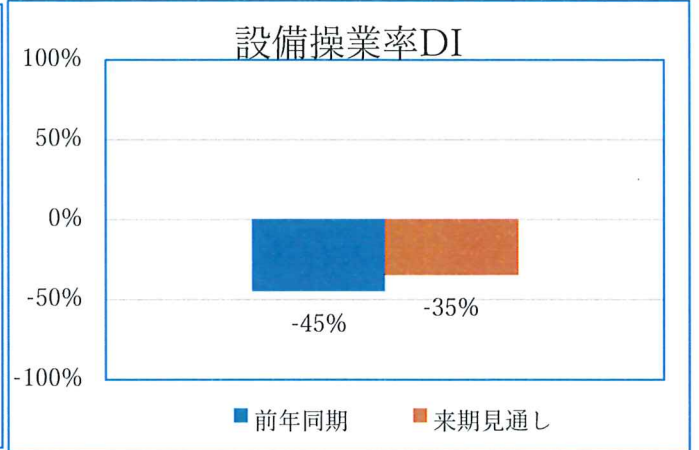
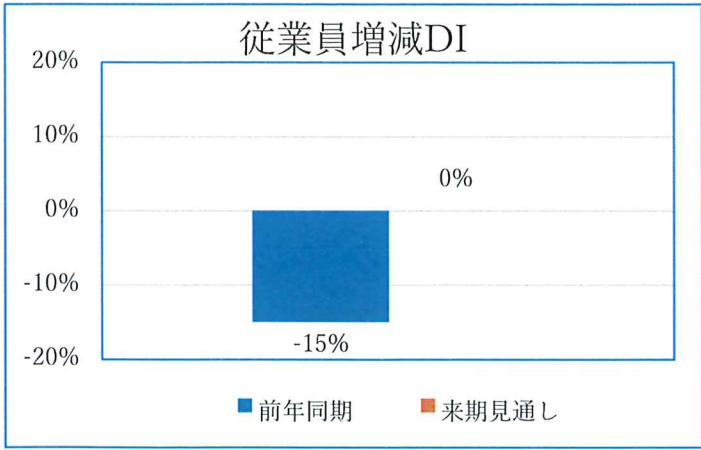


資金繰りDI



原材料仕入単価DI





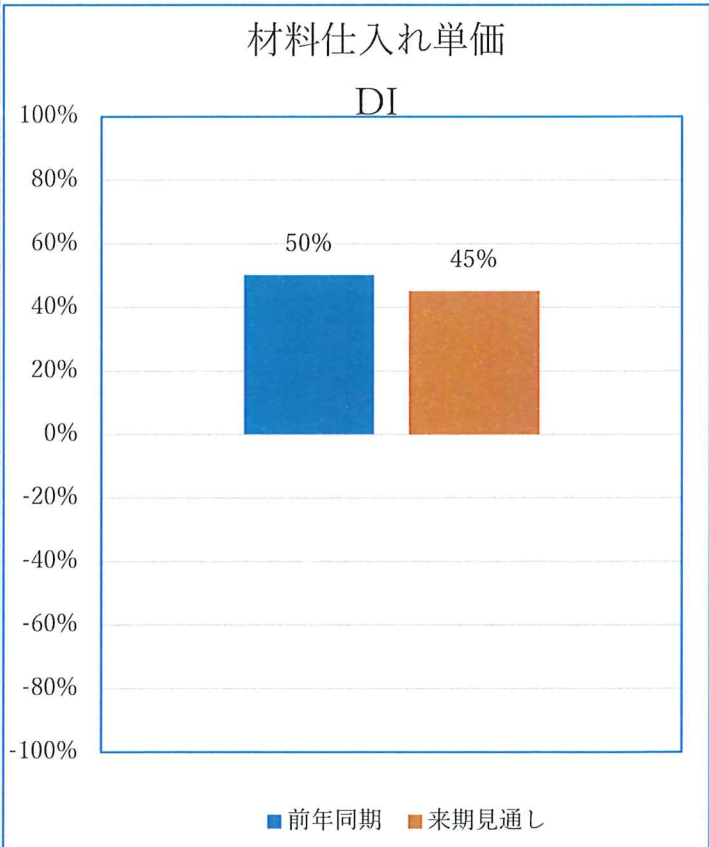
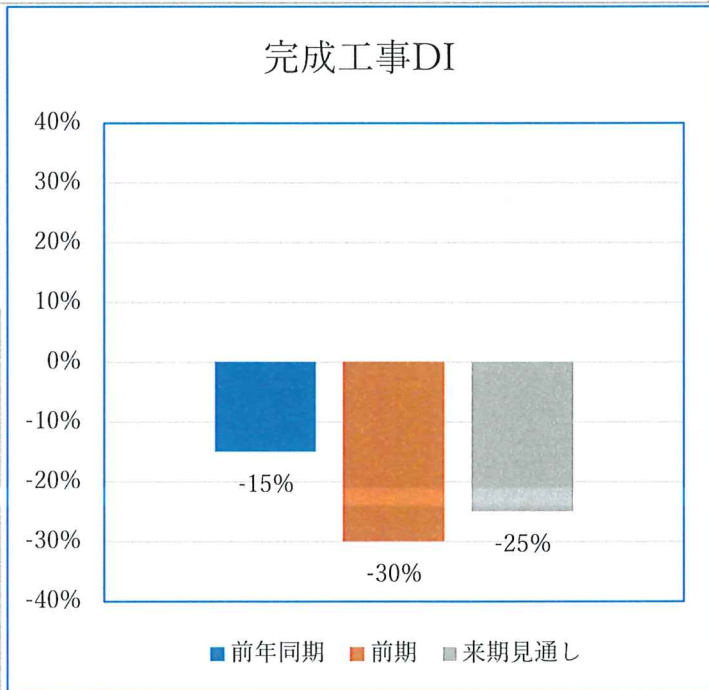
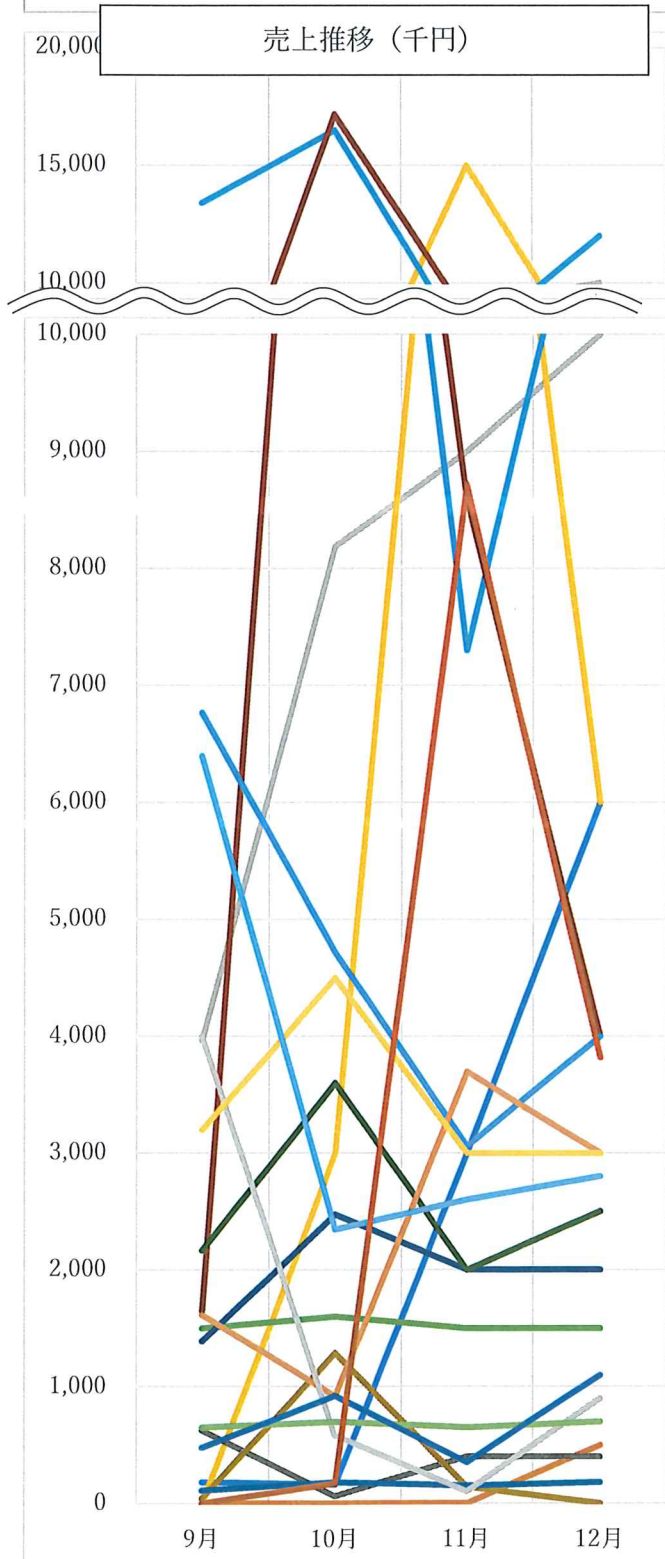
建設業（2024年10月～12月）DI 値抜粋

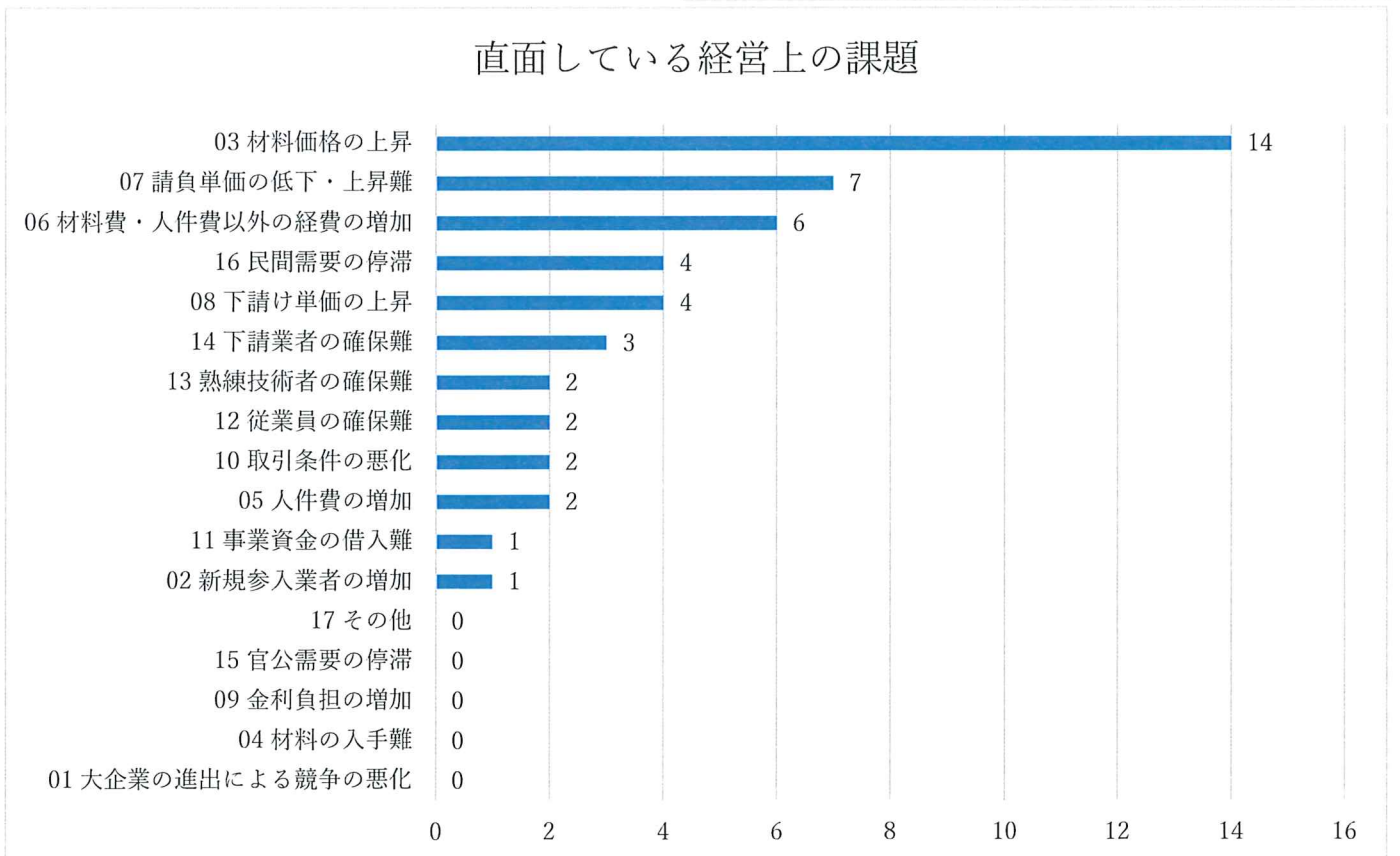
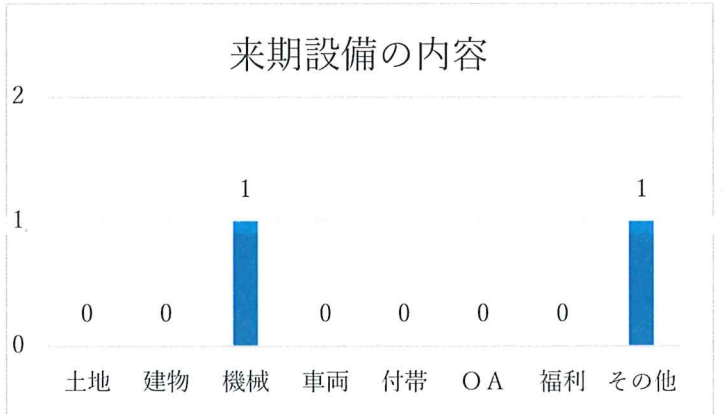
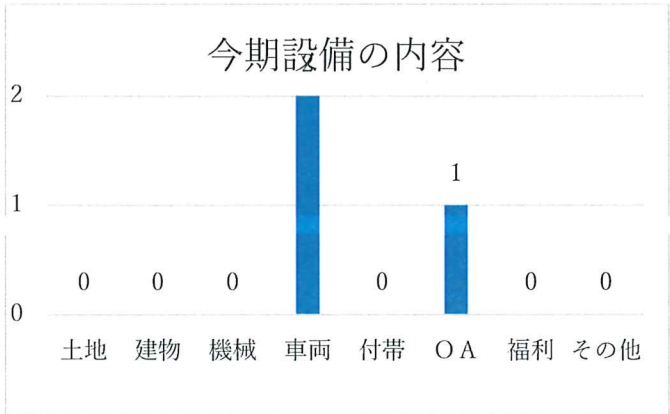
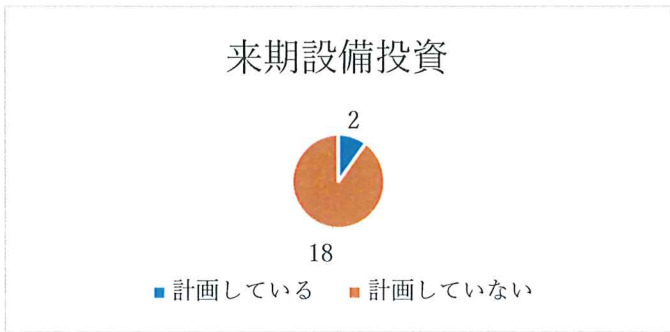
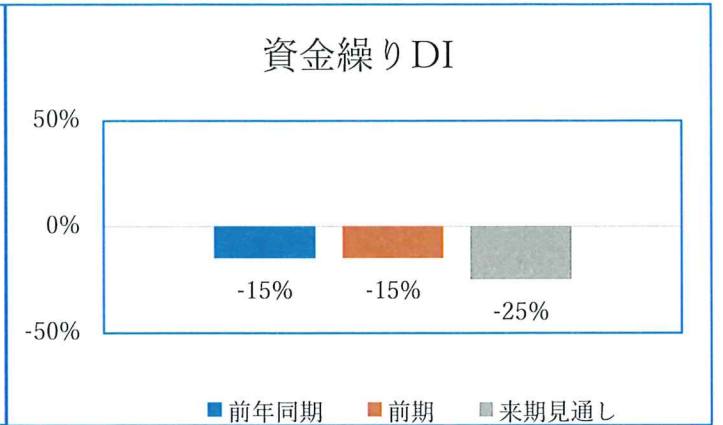
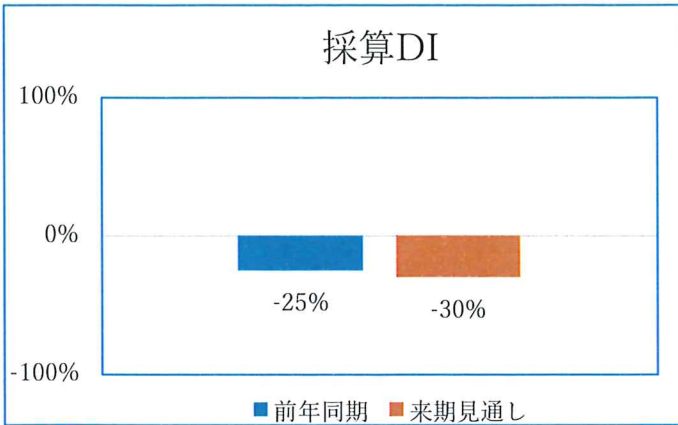
コメント

建設業の業況は、低調な状況が続き先行きも厳しい見通し。原材料価格等経費上昇の影響が続き採算面も厳しく、資金繰り面も厳しい状況が続いている。

完成工事高DIは前年同期▲15、前期▲30、今後の見通しは▲25と低下傾向で先行きは厳しい。

材料原価上昇を上げる声を引き続き大きく、前年同期で値上がり+50、来期見通しも+45と前回調査と変わらず上昇を懸念する声が多い。採算DIも前年同期▲25、来期も▲30と不安の声が多い。資金繰りは前年同期▲15、前期比▲15、今後の見通しは▲25と厳しい状況が続いている。設備投資を予定する声も少ない。直面している経営課題として、材料の価格上昇を挙げる声が最も多い。個別の企業の声としては、長浜市内及び米原では新築物件が少なく、今後はリフォームや鉄骨物件を推していこうと思います。10月頃からリフォームの引き合いが止まってしまった。これから寒くなるので工事の依頼も少なくなると思います。工事の問い合わせが減少した。問い合わせがあっても、見積金額が合わず見送りになることがほとんど。下請け業者の確保難により受注が難しい。昨年、今年とコロナ明けによる景気の回復があったが、材料価格、物価の高騰により、来年以降は工事受注が少なくなるように思います。と明るい声がない。

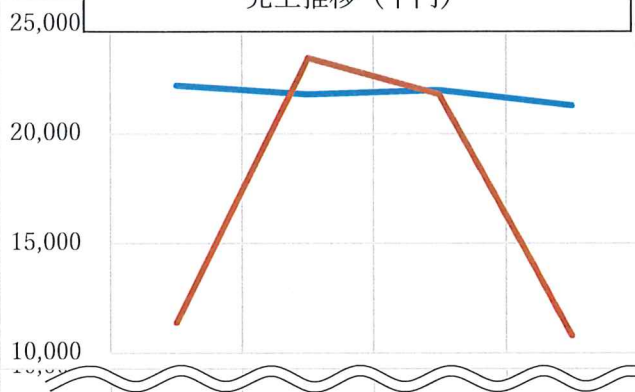




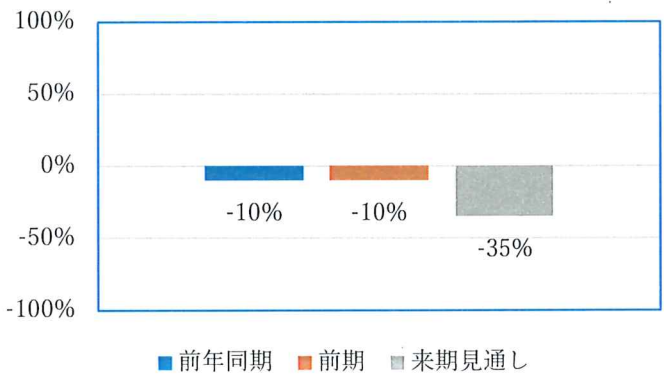
コメント

卸小売業の業況に関するDIは、回復が見えない状況が続いている。仕入単価上昇の影響を挙げる声も引き続き大きい。売上DIは前年同期▲10、前期からは▲10と厳しい状況であり。来期の見通しも▲35と先行の見通しはさらに厳しい。資金繰りDIについては前年同期▲30、前期▲25、来期も▲15で依然として厳しい状況である。客単価も低調で前年同期▲10、前期▲10、来期見通しも▲40と落ち込みを懸念する割合が多い。仕入単価上昇を挙げる声は収まりを見せつつあり前年同期+35、来期見通しも+35と前回調査時とはポイント半減している。借入難度の前年同期▲10、来期見通しは▲10と不安の声は続く。直面している経営課題として、仕入れ単価上昇、需要低迷と収益低下に関する課題を挙げる声が多い。個別の声として、県から発注の公共工事が少ない、ネット上の価格が低いと受注面、価格面の厳しい状況。仕入れロットが増加して仕入れを諦めることや過剰在庫が懸念される。価格改定を行って様子見している所である。法事や祝事の簡素化によって、顧客が減少し、利益が少ない。景気も良くないので、客単価も上がってこない。集金、配達時にお客様との会話で、物価高騰、生活苦の話題が多くなった。代金回収が困難なお客様もおられる、困惑しています。価格転嫁もうまくいっていない。といった声が挙げられ、厳しい状況が浮き彫りとなっている。

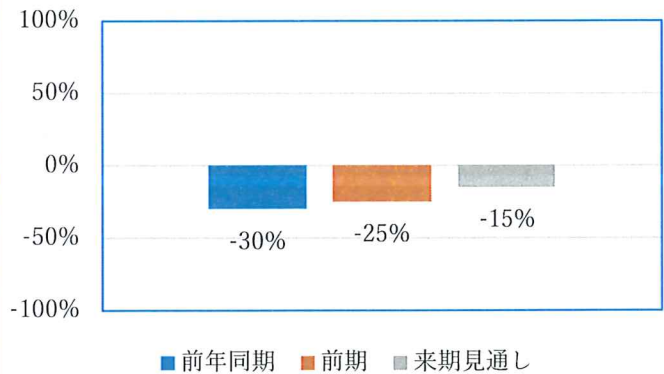
売上推移（千円）



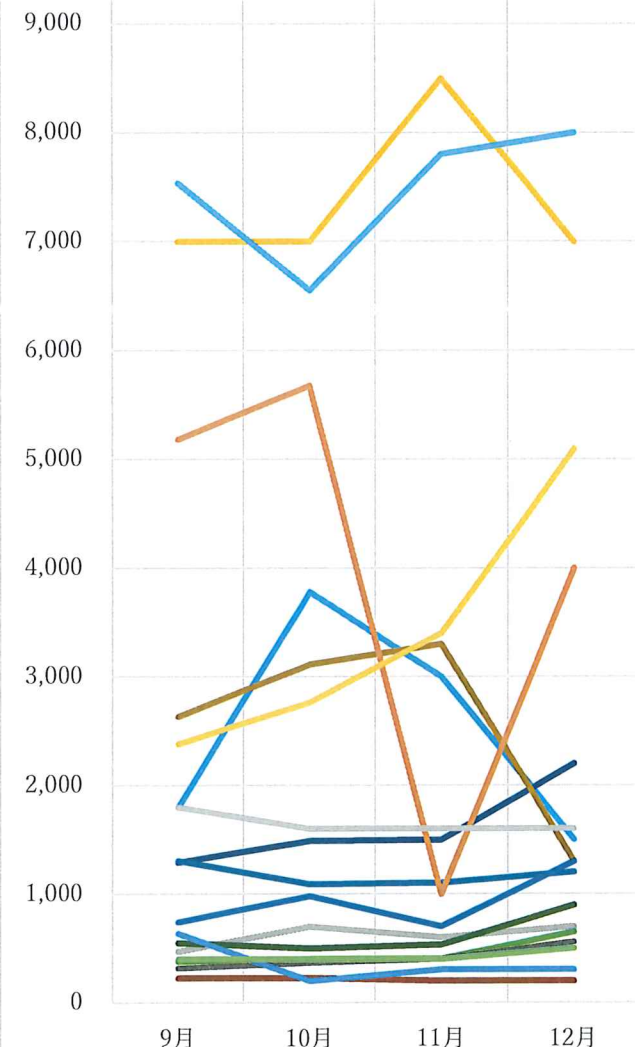
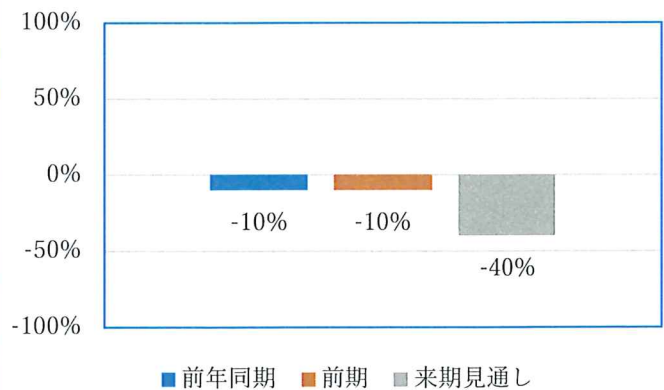
売上DI

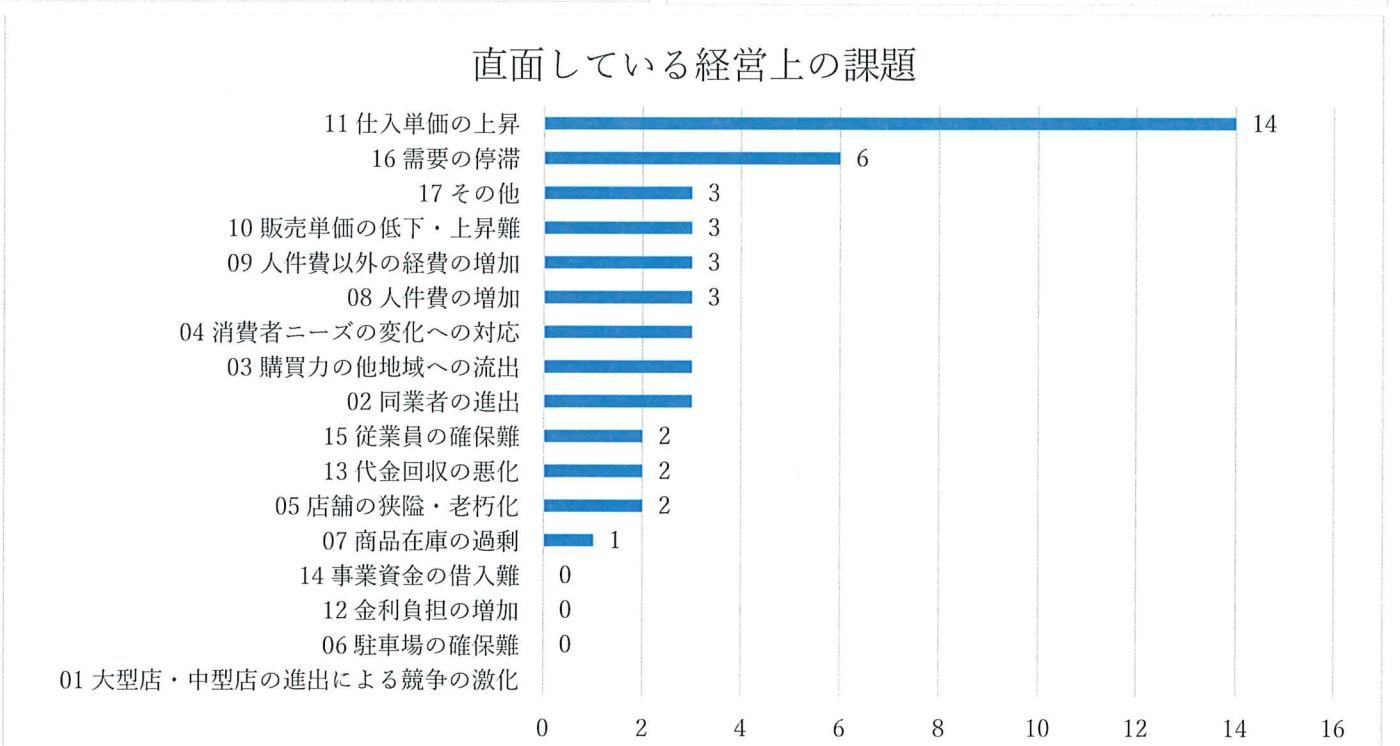
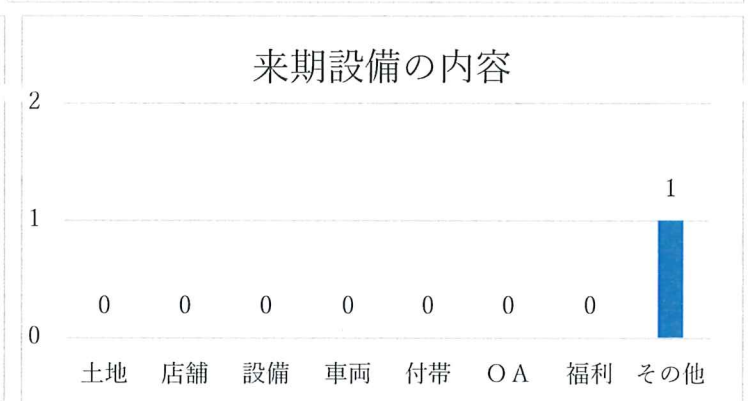
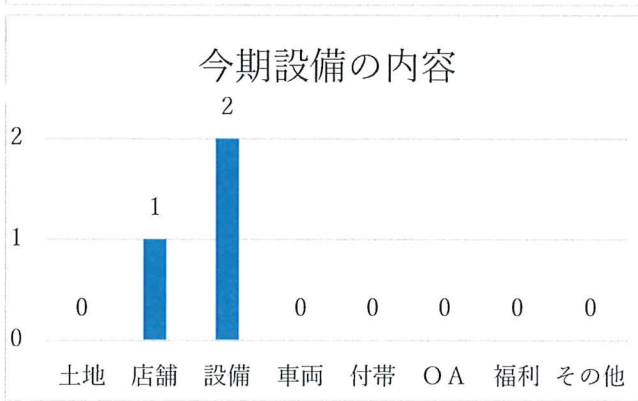
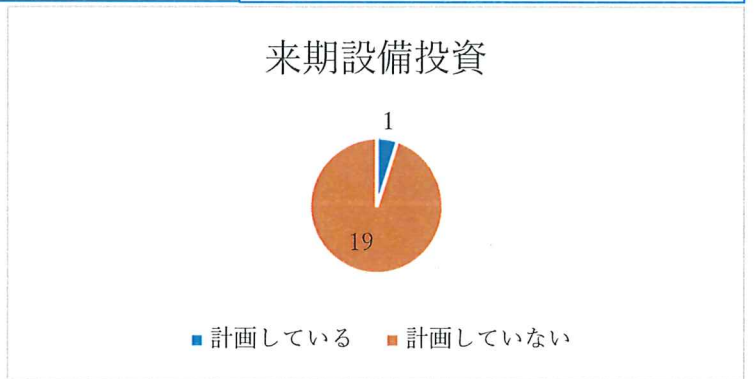
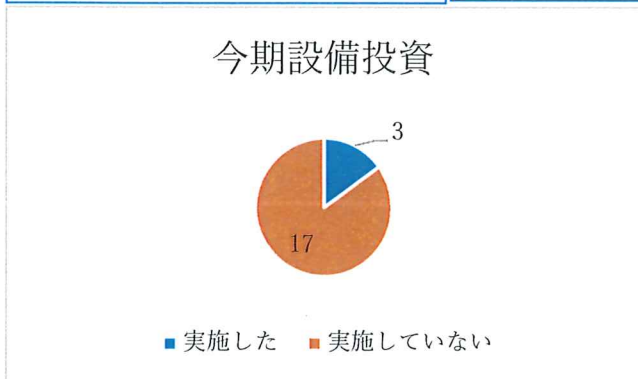
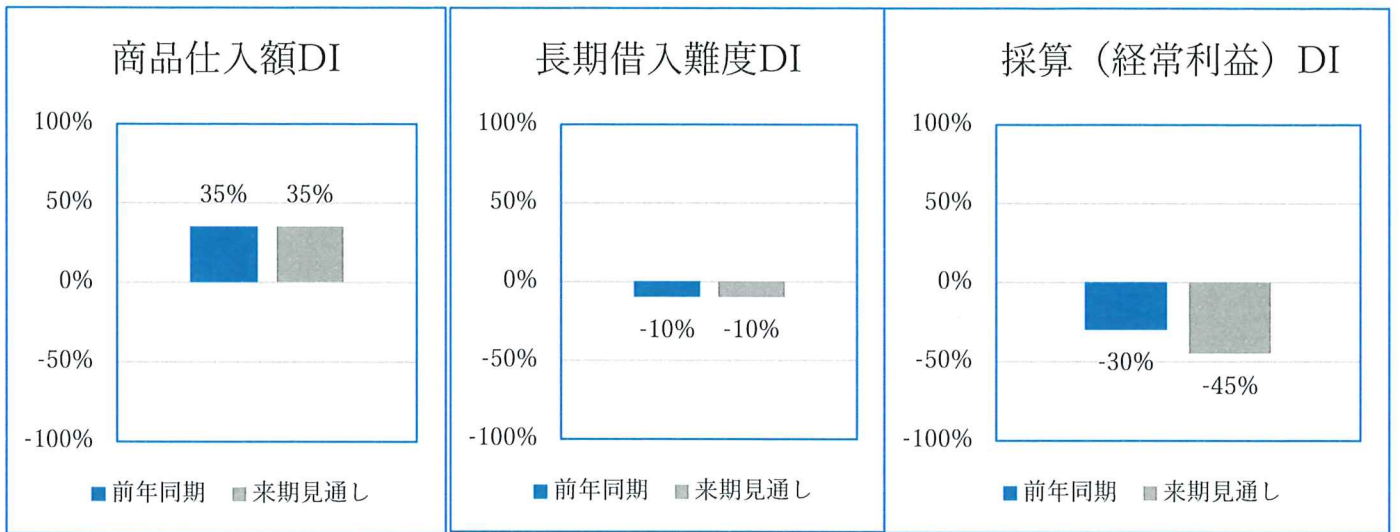


資金繰りDI



客単価DI







飲食宿泊業（2024年10月～12月）DI 値抜粋

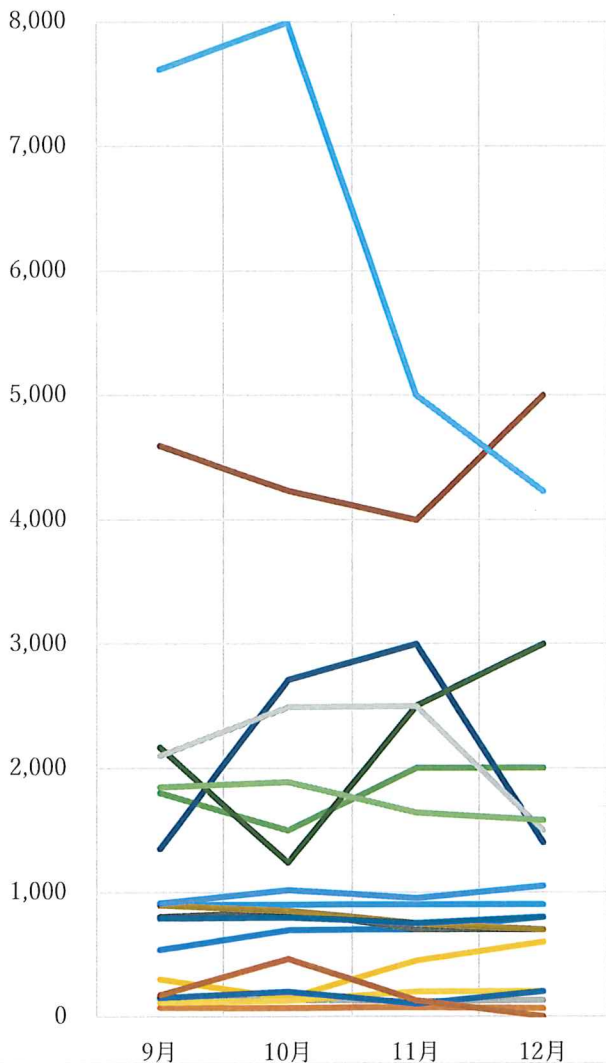
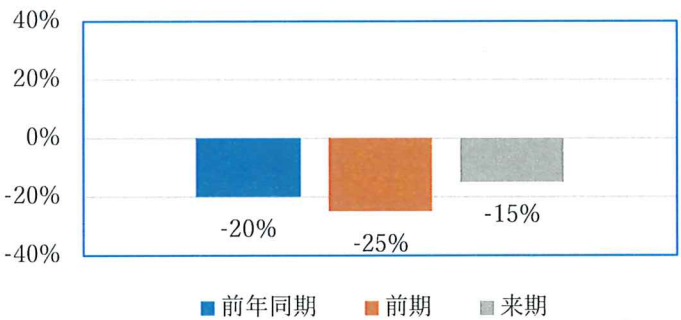
コメント

飲食宿泊業の業況に関するDIは、落ち込んだ状況から回復が見えない状況で、原価上昇により採算が厳しい状況が続いている。売上DIは前年同期▲20、前期▲25、来期は▲15と低調な状況が続く。客単価DIは前年同期▲10、前期▲25、来期は▲20と回復が見られない。利用客数DI前年同期▲30、前期▲30、今後の見通しは▲15と客足が戻らない状況である。資金繰りDIは前年同期▲40 前期▲35 来期▲25と資金繰り悪化が続く。仕入単価の上昇は前年同期+85 来期見通しとも+65と原価上昇の状況が顕著で、採算は前年同期▲60 来期見通し▲50と非常に厳しい見通しである。設備投資は低調ながら店舗への投資が見受けられる。経営課題には仕入単価及び人件費の増加のほか、その他コスト増加店舗設備の老朽化を挙げる事業者が多い。個別の声として、地元での利用客は減少したが、宿泊で県外のお客が多い。人口の多いところでの宴会は戻ってきているが、地方での宴会などは未だに戻ってきていないと感じている。今後自社は宿泊業に注力していこうと思う。物価や人件費が増加しており、価格への転嫁が難しい。値上げ後にお客様から値下げの要望があるため利益が少ない。コロナ明けの昨年の方が人出は多かったように思う。また、琵琶湖の湖魚等が不漁で仕入れができず、商品が道の駅などに卸せず厳しい。といった気候や収穫量に起因する問題も寄せられている。

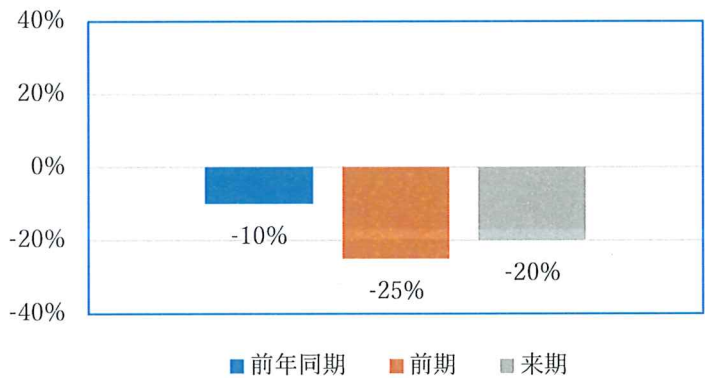
売上推移（千円）



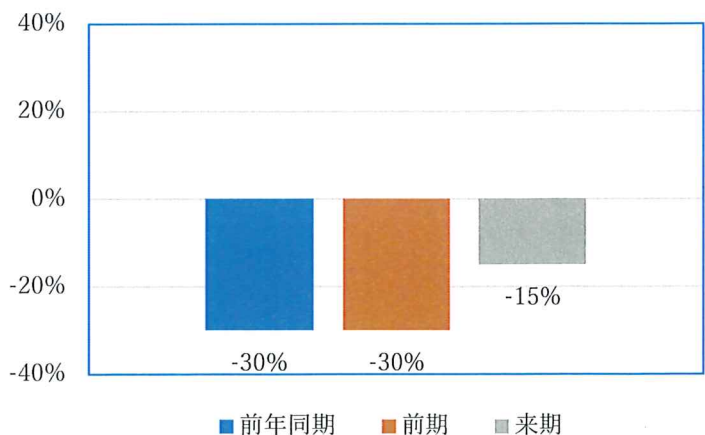
売上DI

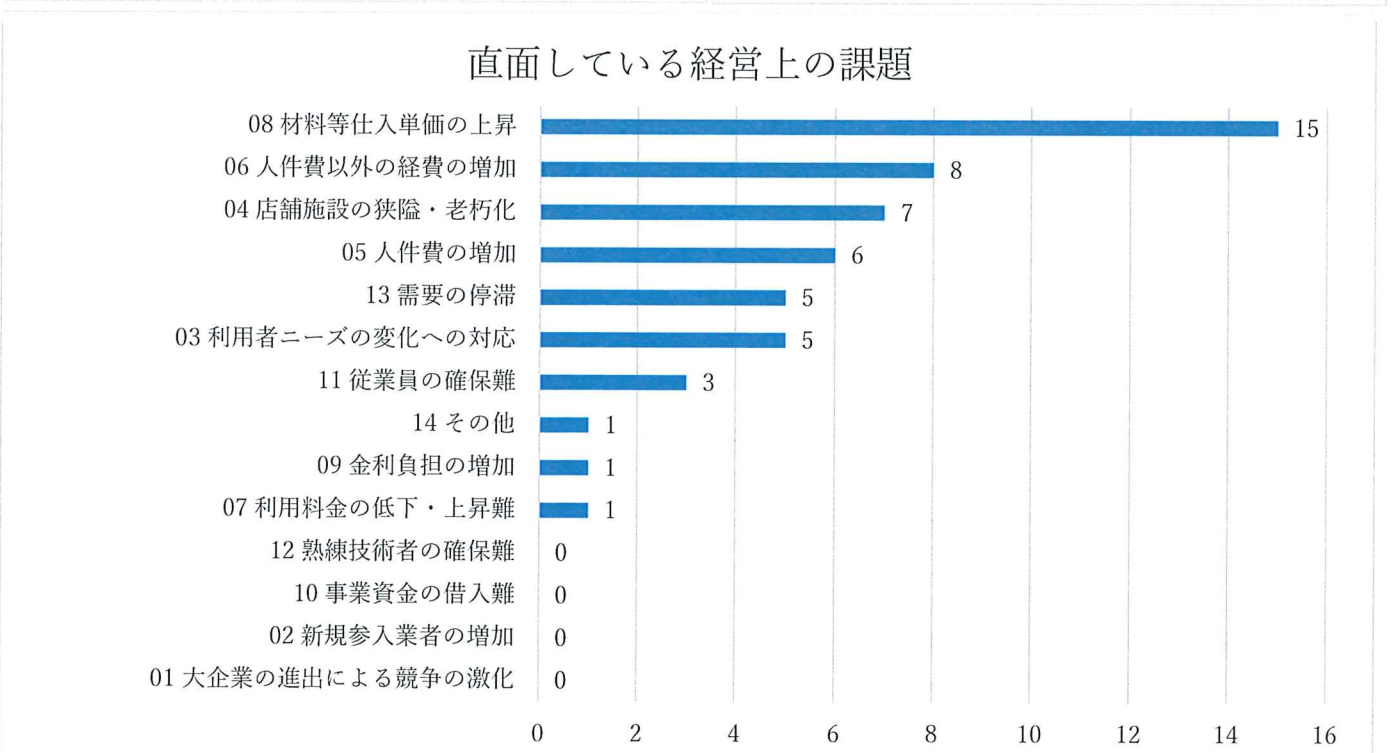
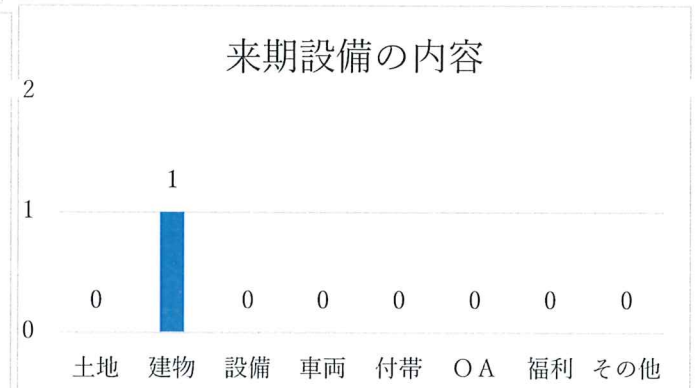
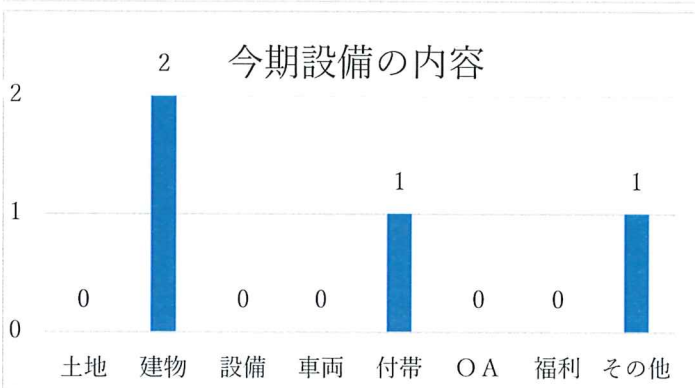
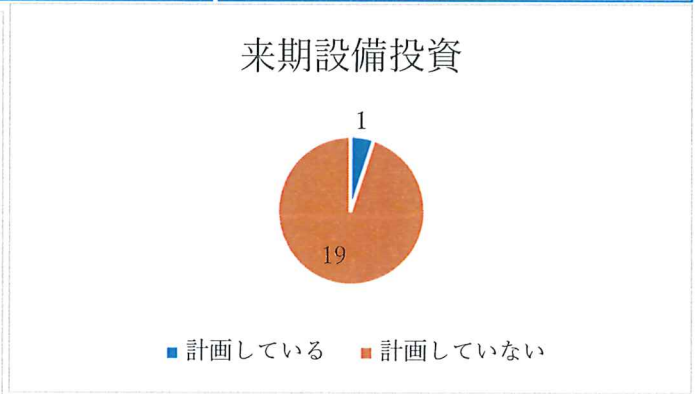
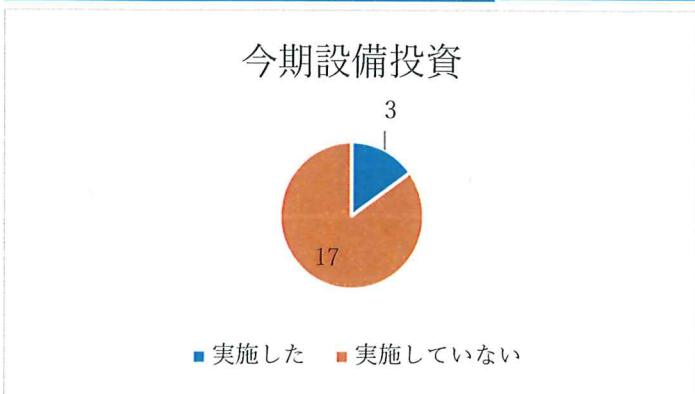
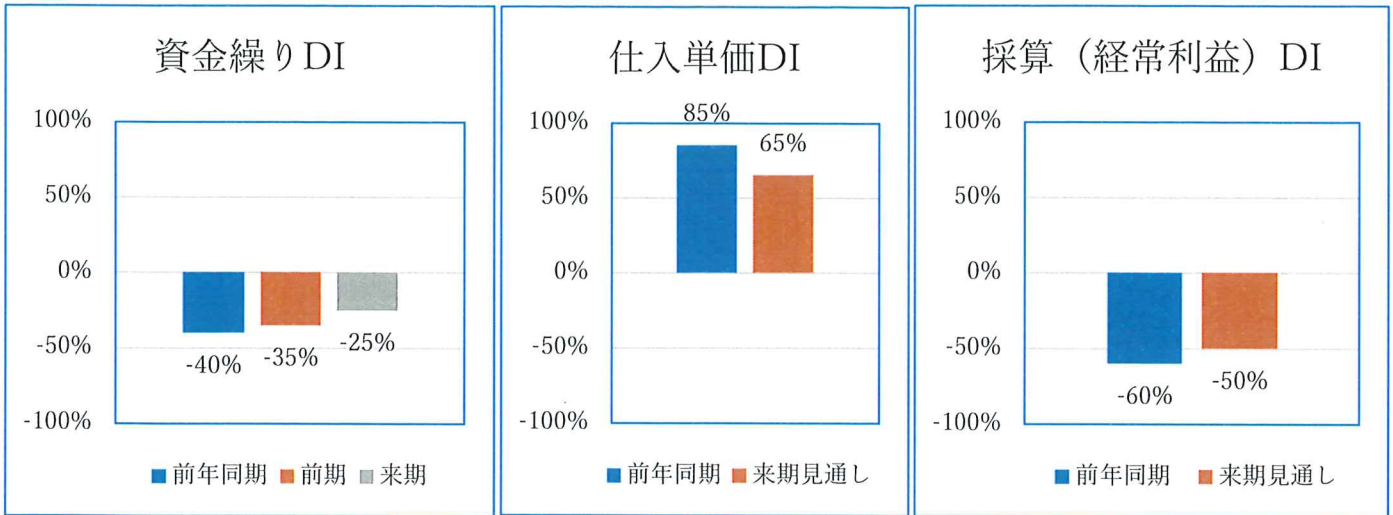


客単価DI



利用客数DI





サービス業（2024年10月～12月）DI 値抜粋

コメント

サービス業の業況は足元で厳しい状況があるが、他業種より明るい兆しが見受けられる。売上DIは前年同期▲15、前期▲5、来期見通し▲20と足元で下げ止まりの様相も先行きは厳しい。客単価DIは前年同期+25、前期+10、今後の見通しは±0と秋口の回復傾向があった。客数DIは前年同期▲30 前期▲20、今後の見通しは▲25と低調な状況が続く。資金繰りについて前年同期▲15、前期▲15 来期も▲10と低調である。仕入単価DIは前年同期+60 来期見通し+50と原価上昇の声が多い。採算DIの前年同期▲5、来期見通しも▲15とコスト高による採算悪化が続く。設備投資も低調である。個別の声としては、物価高の影響もあり、カットやカラーの周期が長くなり売上に影響が出ている。ガソリン代、電気代、その他経費において物価上昇が止まらず、最低賃金も上昇した。利用者から別途請求することが出来ないため、売上を上げる努力をしているが、厳しい状況です。10月から料金改定を行い、収入は増加したものの賃金の引き上げで経費も増加した。と集客面、経費増加面で苦勞している声が多い。

